

# ズバリ聞きます!

## 6月議会・6人が一般質問



杉本 和彰議員

### 地域間交流について

**問** ①定住者、二地域居住者、滞在者の現状と増加するための計画。②農山漁村活性化プロジェクト支援交付金の活用。③その為仮称、対策室等の設置についての町長のお考えをお聞きます。町民の健康対策についてですが、本町のAED設置の状況と今後の導入計画について伺う。

**答** ①合併し、すでに400名人口減となっている。分析そして対策を講じなければならぬ。増加するための計画として平野地区の分譲住宅用地を進めている。その他にも定住対策を行う。②中山間地域総合整備事業に取り組んでいる。指摘されたことは理解いたしますので検討課題として取り組む。AED設置状況は、役場学校等13ヶ所。今年度は中央公民館等5ヶ所を予定し合計18ヶ所となる。

### 農業の総合産業化について

**問** ①畜産・酪農について、もっとプラスの部分が出てくるようなことは考えられないでしょうか。②農業全般のPRなど、イメージアップを図ることをどのように考えているか。

**答** ①農業肥料それから農業資材は値上がりしている。安心安全な食糧の供給のため堆肥を使用し有機栽培農法を推進していく。②生産者は自信と誇りを持って生産に励んでいただきたい。高品質で安全なものであることをPRしていく。これからは、高齢化の中で小物野菜の推進を図っていくことも大事ではないかと思う。

**問** 関西和会に町の農作物を直接売り込んでどうか。今後進めてまいります。



飼料等の高騰にめげず奮闘する町内の畜産農家

### 政治姿勢について国と県と水町とのかわりについて

**問** 的確な情報のとらえ方、スピーディーな対応、行動するタイミング等、今日必要にあわせていかに対応でき、どう利用するかが問われております。この1年で県に何を期待されているのか。(観光、道路網、農業、企業誘致等)又、国や県との情報交換や、窓口とのコミュニケーションの重要性をどのように考えているのか。

**答** 第一次総合計画は、基本構想基本計画及び実施計画により構成している。今後行政が行う事業について十分な検討を行い、基本的にその総合計画をもとに行政の舵取りをする。蒲島県政がスタートし今後、各種事業に対する県の判断、推進についてスピードアップが図られることを期待している。絶好の機会をとらえ沿線住民そして地権者の方々、町民の総意として道路整備に対する強力な要望を行い、急速な推進を図る。

### 観光、文化などの情報の効果的な発信について

**問** 江田船山古墳の出土品に「銀象嵌の太刀」がある。

発掘当時は日本最古の文字と騒がれた。副葬品・装飾品も多くある。もっと国宝指定を有効活用する考えはないか。(レプリカが、きわめて精巧にできている事を含め)又、肥後民家村・とんからりんの活用はどのように考えているか。

**答** 万世の都運営員会において活性化を主題として意見交換をしてもらっている。外部にしっかりと発信し和町の発展につなぐことをみんな考えなければならぬ。本当に足りない部分不足している部分がある。認識ししっかりと受けとめる。資料館に関して専門の方より貧弱さについてお叱りをいただいている。看板については来年度にて予算要求をしたい。

**問** 古代の森樹木管理費が予算削除されているが。

**答** 町が委託し業者をお願いすることになっていたが今年度より県が一括して3つの古代の森を管理する。地元業者が愛情を持ってこまやかなことでもらっていた。地元業者に移して欲しいというのは、古代の森連絡協議会がありその中でも訴えて行こうと思っている。



古閑 修一議員

## 農業の振興について

つに区分して優良農地を確保する。又、担い手への農地の集積を進めると共に、遊休農地になりやすい転作田については高齢者が取り組めるような農作の導入を計る。

**問** 農業生産の基盤である農用地の確保、それに必要な人材の育成に対して、地方目線での国の支援なり対策は急務であり、ましてや、中山間地における農業の実態というものをしっかり把握して頂き、

先の見える農業政策に期待をする。町の基幹産業に位置付けられている農業の振興について伺う。

**答** 国は、遊休農地の解消に向け、その強化対策として農地の有効利用を推進するために、その実態調査をするとしているが、その方法も含めて町の計画及び考えを伺う。

**答** 農振協議会、農業委員会編成をし、9月頃から一筆ごとに再度現地調査を行い、直ちに耕作可能な土地、基盤整備して農地利用すべき土地、農地に復元不可能な土地の3

つに区分して優良農地を確保する。又、担い手への農地の集積を進めると共に、遊休農地になりやすい転作田については高齢者が取り組めるような農作の導入を計る。

**問** 品目横断的経営安定対策事業の特認制度による加入要件はどのように変わったか、又、麦、大豆の生産基盤である農地の暗渠排水の補助について伺う。

**答** 面積については、個人で2・6ha、集落営農で10haと要件を下げた。制度見直しのポイントや特認制度の周知を計りながら加入推進を行っている。暗渠排水の補助については、町単独で15%の補助を設けている。

**問** 原油価格の高騰による影響は深刻であるが、その対策について伺う。

**答** 昨年度国の緊急整備対策事業で、2つの営農組織に対して省エネ型稲乾燥機の導入に対して1/2の補助事業を実施したが今年度もこの事業があるのか分から

ない。又、「園芸新たな挑戦強化対策事業」で施設設備費用について担い手、認定農業者を対象に1/3の単県補助事業がある。

**問** 将来町の農業振興を計る上で認定農業者、担い手の育成は欠かせないものと考えられる。又、その方々が安心して経営が成り立つよう強力な支援が必要だと思ふ。又、「米づくり」に関してぐらいは、農家まかせでなく行政として将来の計画を立てておくべきだと思ふが考えを伺う。

**答** 行政がなすべき事は何なのか、又、支援についても先進事例を身ながら打ちたてていかなければならない。

## 行政懇談会について

**問** 3回目の行政懇談会を終え、町長の思いと今後の取り組みについて考えを伺う。

**答** 参加者が非常に少なかったため今後、テーマを絞ったやり方、出前講座など考えられるが町民の要望を取り入れ巾広く町民との対話を行う

よう努める。

**問** 開催後の反省の場となり、町政に生かすための協議の場づくりについて伺う。

**答** その都度記録を取り、幹部会に於いて検討し、今後どのように取り組むべきか会議をしている。

**問** 若者の声として、町営住宅の増設を望む声が多いが、その考えはないか伺う。

**答** 現時点において考えはない。分譲住宅という事に関して進めていく。現時点に於いて町の低所得者に対する住宅に関しては、十分賄っていると思っている。



本年4月に行われた行政懇談会(和水町中央公民館)

## 菊水ロマン館について

**問** 昨年の12月議会に於いて、指摘、提案していた未収金に関する協議の内容及び改善策について伺う。

**答** 今年2月の役員会の時点でレイトンからの未収金が約580万円あったので、回収計画について検討した。レイトンが設置した備品価格や、立替金、その後300万円の一括返済及び分割払いを差し引いて、現在の未収金は約60万円ある。来年3月31日までに回収できるものと見込んでいる。小山税理士への過剰報酬については約189万円あるが、回収に鋭意努力をしている。四季工房という業者の売掛金が現在12万円あり、今年度中に完済の見込みである。

**問** ロマン館所有の3つの建物に対する固定資産税について伺う。

**答** 固定資産税については、19年度10万6、800円、20年度についても同額、又、不動産取得税については33万3、800円納入済みである。